

月鏡

T S U K I K A S A M I



古の人びとが自然の美しさを愛し、そこに宿る神秘を感じ、昇る太陽を拝み、夜は月明かりを頼り、自然との共存の中で生活をしてきた素の美しい日本の感性を表現したい。

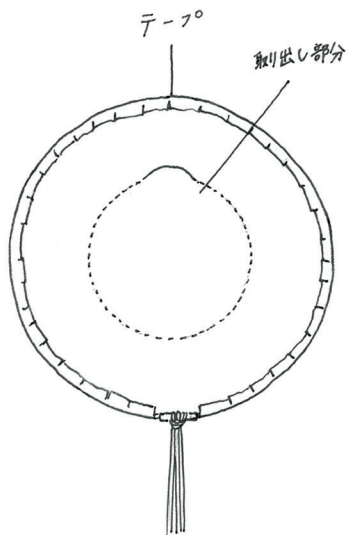
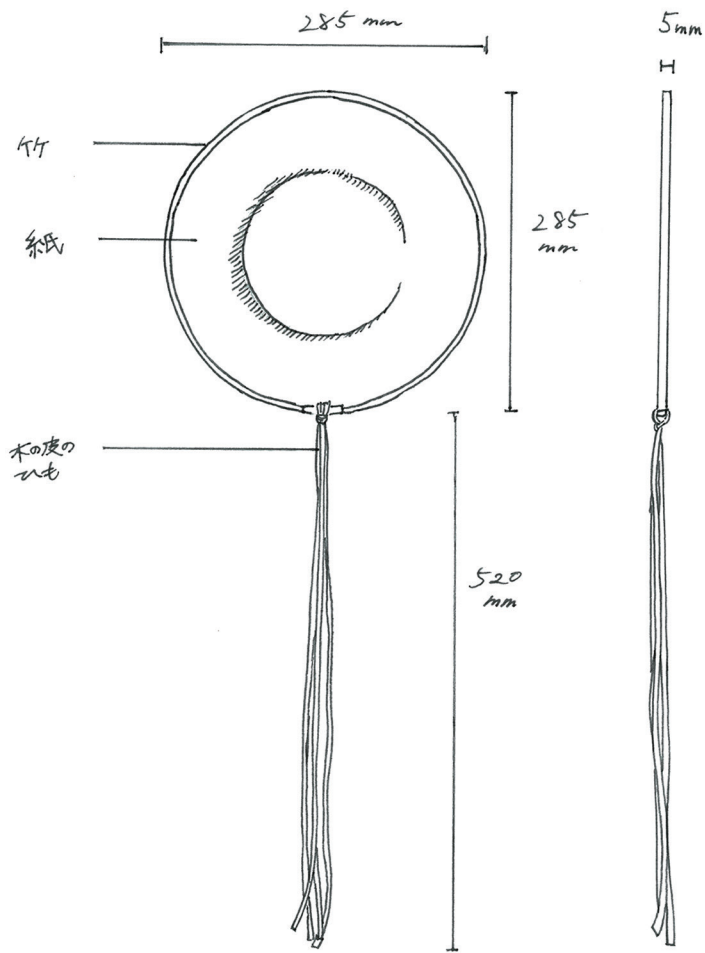
神々しさすら漂う月に魅了され、池の水に映る月をすくい、その瞬間を封じ込めたようなものを具現化した。目で見ることには出来るが手に取る事が出来ないもの。中身を覆うことによつて不可視なものにしたのは、その心を形に表すもつとも端的な考えです。

倉橋潤

倉橋意匠 代表







薄い丸い皿に紙を被せ円い型をとり、その部分を浮き上がらせ、裏にもう一枚紙を貼り封をする。真っ白な中に浮かび上がる円は、薄く円いなものが入っていることを感じさせる。その周りを円く切り、竹ひごをまわし紙テープで留める。自由に変形可能な竹の素材の特性と、竹の輪の中に月を封じ込める儀式的なものを考慮した。最後に木の皮を裂いて作られた紐を数本、竹の輪に通し束で縛る。中身の取り出し方は裏のミシン目に沿って紙を破り中身を取り出す。具体的なものとしては月を見立て円く薄く作ったべっこう飴を一枚入れることを考えた。

月鏡

企画・アートディレクション

倉橋潤

デザイン

倉橋意匠／倉橋潤、佐古井里奈

写真

KOYA WORKS／来間孝司

有限会社 倉橋意匠

六五〇一〇〇〇四 神戸市中央区中山手通四丁目一六―一四 清山荘二―D号室

TEL 〇七八―二六二―六一〇六

FAX 〇七八―二六二―六一〇七